

* 1932年頃の東京天文台の航空写真発見

昭和26年に東京天文台職員組合が発行した「見学の栞」に出ていた彗星搜索鏡の図を発見したことから話がどんどんにぎやかになり、次々と新しい事実が判明している。彗星搜索鏡が設置されていたドームが卯酉儀ドームだったことがわかったことは筆者にとっては大きな事実であった。30cm望遠鏡ドームだったのではないかという指摘があったが、東京天文台90年史に30cm望遠鏡ドームは昭和26年3月31日が竣工日とあるから、昭和2年(1927年)に購入された彗星搜索鏡が設置されたはずはない。そして天文月報1932年1月号の表紙に掲載された航空写真にもこの30cm望遠鏡ドームが写っていない事からも傍証が取れた。しかし、この彗星搜索鏡の設置されたドームを同定するために、1932年頃の航空写真を発見し、よく眺めてみるとなかなか興味深い事がわかった。今一度、天文月報1932年1月号の表紙を飾った航空写真の元になった写真1を掲載する。

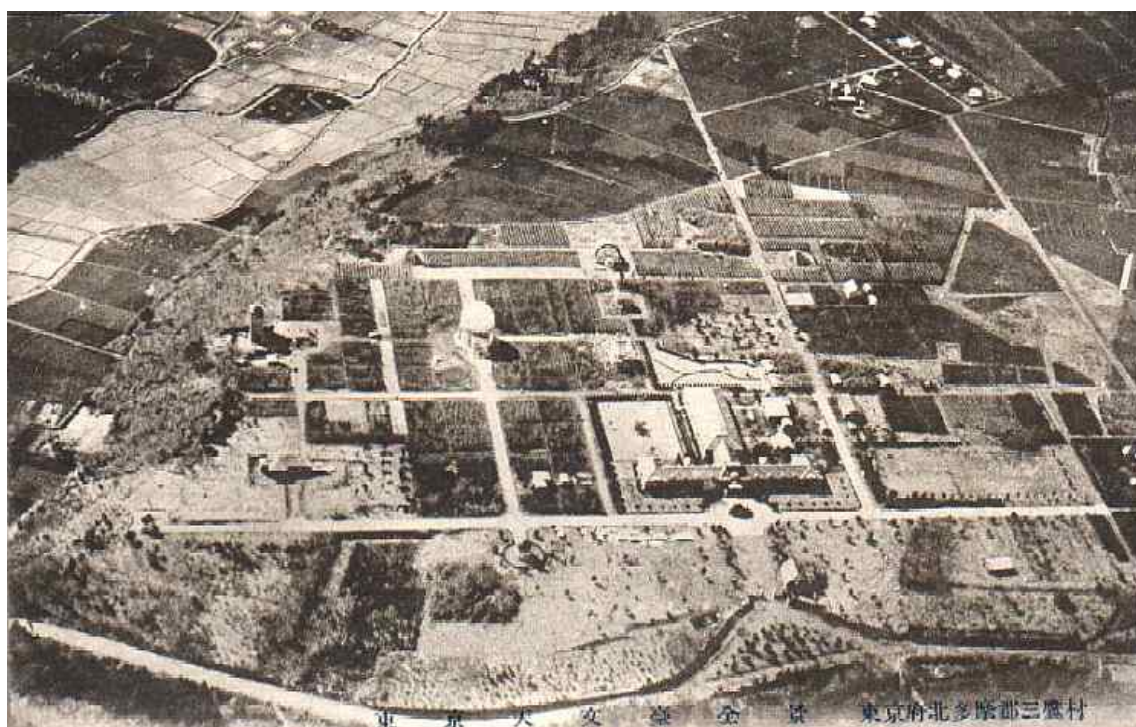


写真1 天文月報1932年1月号の表紙の写真の元になった写真

写真1には1945年2月8日未明に火災のため焼失した東京天文台本館(大正10年3月31日竣工)が写っている。また26吋屈折赤道儀望遠鏡ドーム(大赤道儀室:大正15年3月25日竣工)、8インチ屈折望遠鏡ドーム(第1赤道儀室:大正10年得月31日竣工)、ブラッシャー望遠鏡ドーム(天体写真儀室:大正13年6月30日竣工)、塔望遠鏡ドーム(大正14年2月28日竣工)、卯酉儀(室)ドーム(大正13年6月30日竣工)の5つの

ドームが写っている。そのほかに太陽写真儀室（大正9年9月11日竣工）、聯合子午儀室1、2（大正10年3月31日竣工）、ゴーチェ子午環室（大正13年5月9日竣工）、子午線標室1、2（大正14年2月28日竣工）、レプソルド子午儀室（大正13年2月28日竣工）、書庫（昭和5年3月31日竣工）、ポンプ室（大正11年3月31日竣工）、門衛所（大正13年12月22日竣工）、油庫（大正14年2月28日竣工）、倉庫（昭和4年3月25日竣工）が写っている。1932年は昭和7年であるから、それまでに建って同定できていない建物は時計庫（33平米、大正12年7月1日竣工）、第2赤道儀室（7平米、大正13年12月22日竣工）の2つだけである。第2赤道儀室は7平米で、卯酉儀室とほぼ同じ大きさである。その程度の大きさのドームが大赤道儀室と塔望遠鏡の間に見えるからこれかもしれない。時計庫は本館の東西棟の北側の建物だと思う。彗星望遠鏡室が昭和10年3月30日竣工とある、これがグラウンド西側にあったコメットシーカーと呼ばれていた建物だと思う。

国際報時所の建物、官舎群が移っているが、当然ながら戦後建てられた官舎群は写っていない。東西南北に走る道路、現在の杜とは全く違った光景である。参考までに現在のキャンパスの航空写真を載せておく。



写真2 最近の三鷹キャンパスの航空写真